

## 1. 日本青年の応募状況について（令和元年度、令和3年度との比較）

（単位：人）

	和元年度（対面）応募状況			令和3年度（オンライン）応募状況		
	希望者数	倍率 (希望者数/ 定員)	定員	希望者数	倍率 (希望者数/ 定員)	定員
国際社会青年育成事業	107	2.97	36	40	1.25	32
日本・中国青年親善交流事業	53	2.12	25	37	1.48	25
日本・韓国青年親善交流事業	51	2.04	25	44	3.7	12
「東南アジア青年の船」事業	111	2.85	39	96	3.6	27
「世界青年の船」事業	387	3.23	120	109	2.7	40
計	648	2.41	269	226	1.66	136

※ 参加申込書に記載されている内容を基に内閣府青年国際交流担当室で作成

※ 応募者数とは、内閣府青年国際交流事業の参加申込書を提出した者であり、参加申込書提出後に選考を辞退した者も含む。

※ 各事業の希望者数の合計は、事業を併願する者を除いて実人数を計上しているため、各事業の希望者数と一致しない。

## 2. 日本青年の応募状況について（令和元年度、令和3年度の応募者の属性）

	令和元年度（対面）応募者数		令和3年度（オンライン）応募者数	
学生	523人	81.2%	168人	74.3%
社会人	101人	15.7%	52人	23.0%
その他	20人	3.1%	6人	2.7%
計	644人	100%	226人	100%
男	210人	32.6%	46人	20.4%
女	434人	67.4%	178人	78.8%
計	644人	100%	224人	99.1%

※ 参加申込書に記載されている内容を基に内閣府青年国際交流担当室で作成

※ 応募者数とは、内閣府青年国際交流事業の参加申込書を提出した者であり、参加申込書提出後に選考を辞退した者も含む。

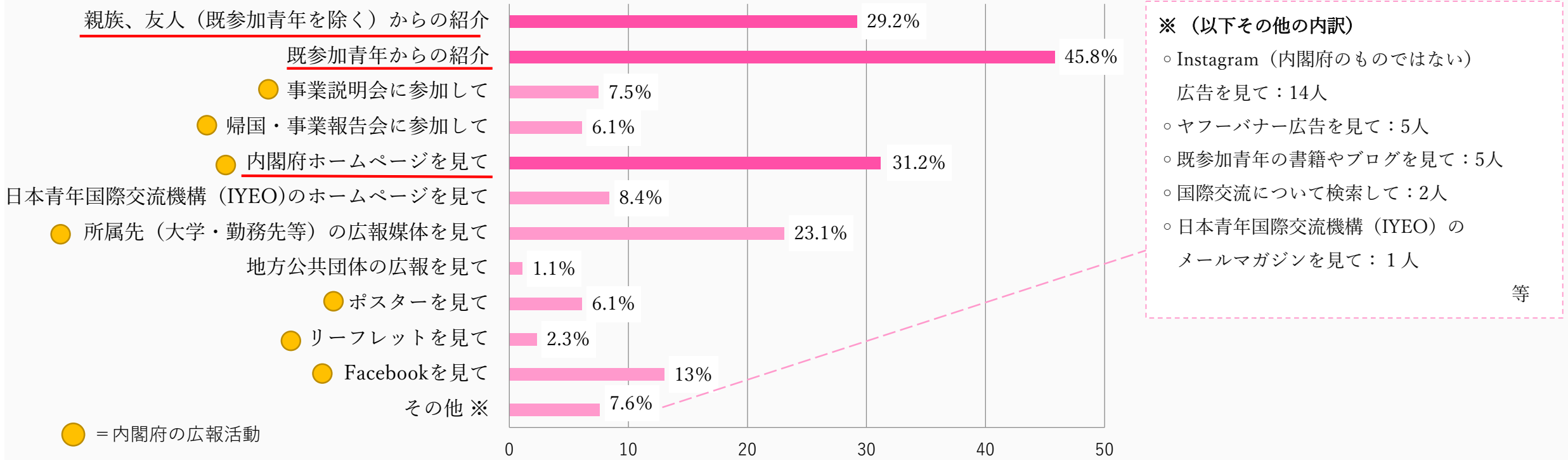
※ 令和元年度については、都道府県等の一次選考で非通過者4名の属性を聴取していないため応募者数から除いている。

※ 令和3年度事業については、参加申込書の性別欄に「無記載でも可」とし、一部性別を聴取していないため、男女の合計が100%とならない。

## 3. 令和元年度内閣府青年国際交流事業募集に係る広報効果について

- 令和元年度内閣府青年国際交流事業参加申込書にて、「内閣府青年国際交流事業を知ったきっかけ」を調査

内閣府青年国際交流事業を知ったきっかけ（複数回答可）

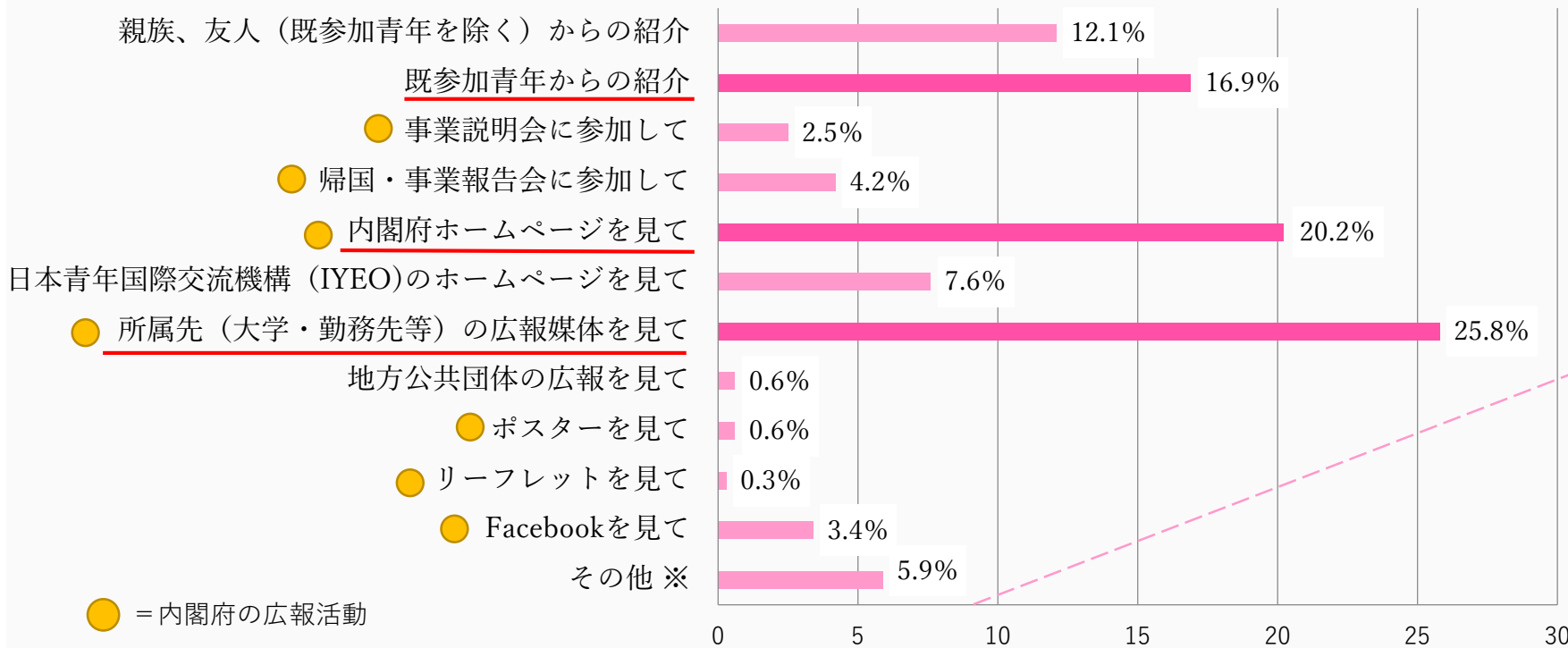


多い順に、①既参加青年からの紹介 ②内閣府HP ③親族、友人（既参加青年を除く）からの紹介という結果に人から人への紹介が多い中で、内閣府の取組であるポスター掲示や事業説明会等の広報活動を端緒としたものが、割合として低い。

## 4. 令和3年度内閣府青年国際交流事業募集に係る広報効果について

- 令和3年度内閣府青年国際交流事業参加申込書にて、「内閣府青年国際交流事業を知ったきっかけ」を調査

内閣府青年国際交流事業を知ったきっかけ（複数回答可）



※（以下その他の内訳）

- 再受験した：4人
- 教授からの紹介（講義内等）：4人
- 大阪青年赤十字奉仕団からの紹介：1人
- 神戸青年赤十字奉仕団からの紹介：1人
- ガールズスカウト日本連盟からの紹介：1人
- 日本作業療法学会セミナーに参加して：1人
- 事後活動報告メールを見て：1人
- 所属大学のメールマガジンを見て：1人
- 日本青年国際交流機構（IYEO）のメールマガジンを見て：1人
- Twitterの広告からアクセスして：2人
- Instagram（内閣府のものではない）を見て：2人
- ネット検索して：1人

多い順に、①所属先（大学・勤務先等）の広告媒体 ②内閣府HP ③既参加青年からの紹介という結果に  
 ①については、今年度受注業者を通じて、全国250の大学に広報の協力依頼を行った結果が反映されたものと思料  
 ③及びIYEOのHPについても、IYEO会員への周知によるものと考えられる。

## 5. 日本青年選考の流れ（令和元年度 対面での交流事業を実施した際の例）



応募者は、都道府県・青少年団体に応募書類を提出

- ・ 参加申込書（履歴書に相当）
- ・ 作文
- ・ 健康診断書

テーマ1：志望動機

テーマ2：本事業の参加青年として参加することになった場合、

- ①事業の活動の中で何をしたいか
- ②帰国後その経験をどのように生かすか

都道府県・青少年団体が応募書類を基に第1次選考を行い、選考を通過した者が、内閣府に報告される。

→ [詳細次ページ](#)

内閣府において、下記試験を東京・大阪会場で実施

→ [詳細次ページ](#)

1. 筆記試験（択一式教養試験、小論文）（60分）
2. 英語グループ面接試験（20分） ※日中・日韓事業を除く
3. 個人または集団面接試験（20分）+グループディスカッション（10分）

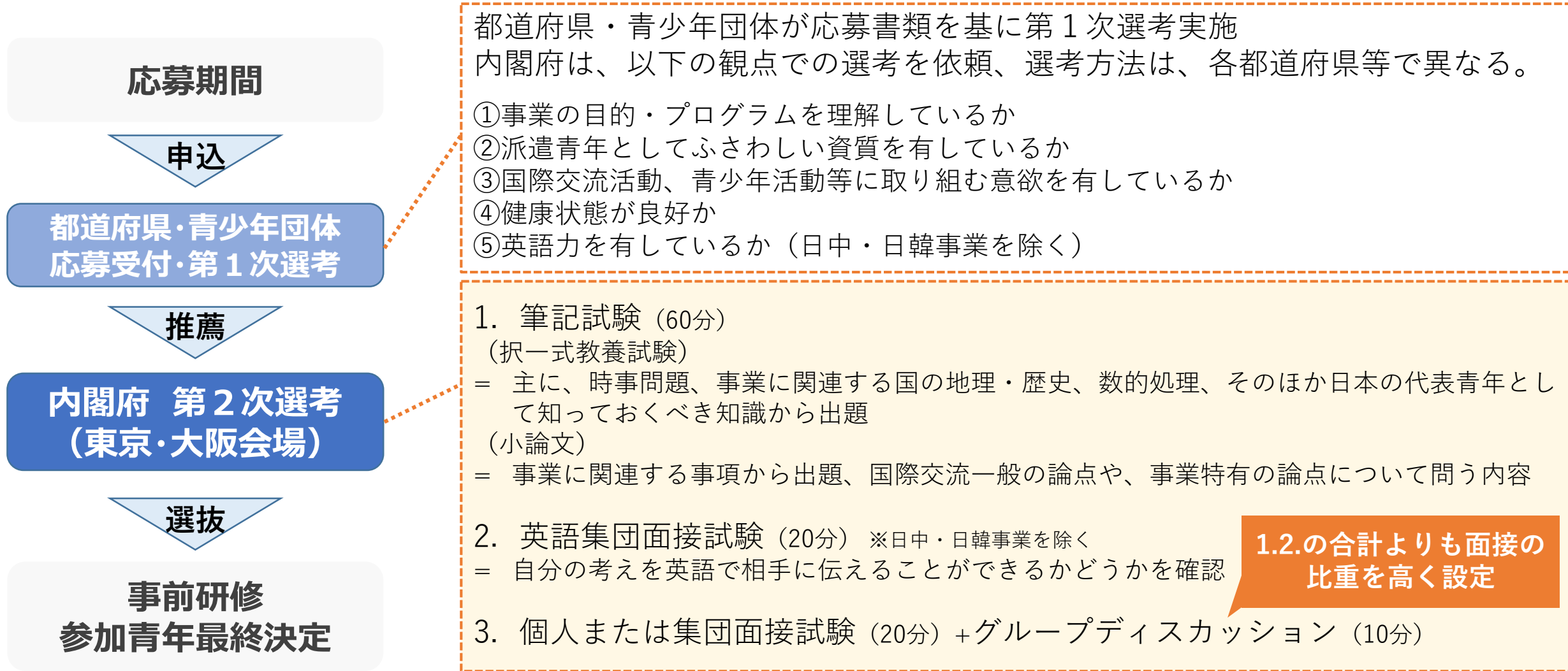
東京近郊で合宿形式で実施

事前研修の結果を踏まえ、日本参加青年を最終的に決定し、研修修了時に参加決定証を交付

※第2次選考合格者は、事前・出発前・事後研修全ての日程への参加が必要。  
 ※第2次選考合格者は、全日程への参加について、職場や学校の同意が必要  
 ※参加費のほか、選考に係る費用や研修参加のための旅費などは個人負担

第二次選考試験当日に誓約書の提出が必要

## 6. 日本青年選考試験内容（令和元年度 対面での交流事業を実施した際の例）



※第2次選考合格者は、事前・出発前・事後研修全ての日程への参加が必要。第二次選考試験当日に誓約書の提出が必要  
 ※第2次選考合格者は、全日程への参加について、職場や学校の同意が必要  
 ※参加費のほか、選考に係る費用や研修参加のための旅費などは個人負担

## 7. 外国参加青年決定の流れ（令和元年度 対面での交流事業を実施した際の例）

主催事業（世界船）  
の流れ

共同事業（東ア）  
の流れ

各国政府へ  
選任・推薦依頼

外務省  
在外公館

各国において青年選考

各国政府は  
在外公館と  
協議の上  
推薦

選任・推薦された  
青年名簿が接到

参加青年  
最終決定

各事業の実施要領において、外国青年の要件を設定

- ・共同事業（日中、日韓、東ア）は、相手国政府が参加青年を選任。
- ・主催事業（育成、世界船）の交流対象国には、外務省及び対象国の在外公館を通じて参加青年の推薦を依頼。

<外国参加青年の要件> ※ 一部抜粋

- ① 年齢18歳～30歳
- ② 心身ともに健康な者
- ③ 全日程に参加できる者
- ④ 日本に対して関心と理解のある者
- ⑤ 規律ある団体行動ができる者
- ⑥ プログラムを円滑に行う英語力（日中・日韓事業を除く）
- ⑦ 訪問国（参加国）に対する関心・理解がある者
- ⑧ 青少年団体等で活動を行っている者や今後活動が期待できる者（主催事業）

各国において、参加青年の選考を実施 → [詳細次ページ](#)

（世界船事業の場合は、当該国の事後活動組織の協力又は意見を求めることが望ましい旨伝達している。）

各国での選考を経て、選任・推薦された青年の名簿が内閣府に接到  
（主催事業は、各国政府が在外公館と協議の上推薦し、外務省を通じて通達）

主催事業について、各国から推薦を踏まえて内閣府が外国参加青年を最終決定

## これまでの募集・選考について

## 8. 各国での参加青年選考の例（令和元年度 対面での交流事業を実施した際の例）

主催事業（世界船）  
の流れ共同事業（東ア）  
の流れ各国政府へ  
選任・推薦依頼外務省  
在外公館

各国において青年選考

各国政府は  
在外公館と  
協議の上  
推薦選任・推薦された  
青年名簿が接到参加青年  
最終決定

## 各国での選考倍率について

外国参加青年の選考倍率について、令和元年度の状況を各国に聴取したところ、東ア船事業……高い国で190倍、低い国で3倍程度  
世界船事業……高い国で208倍、低い国で10倍程度  
育成事業……1倍程度

※ 記録が残っている国からの回答に基づく

## 各国での選考方法について

選考方法としては、主に書類選考、筆記試験、面接試験が行われているほか、一部の国においては、最終試験前に合宿形式の選抜が行われている例あり。

&lt; 倍率が高い国の選考方法の例（世界船：メキシコ） &gt;

- ① 応募書類等として履歴書、作文、自己PRビデオを提出させ、それらに基づき選考
- ② 語学（英語）、一般教養試験実施
- ③ 社会奉仕活動等へ派遣・従事  
（「Food Bank」と呼ばれる貧困層へ食料を提供する非営利団体でのボランティア活動や、辺境地に往訪し、住居の塗装や、学校施設等の清掃活動を実施）
- ④ 心理テスト（パーソナリティ診断）と2日間の合宿研修
- ⑤ 政府、在外公館、事後活動組織による最終面接

社会奉仕活動として、住居塗装、学校施設等の清掃活動を実施している様子  
（→）





## 9. 各国での参加青年募集・広報の状況及び苦慮している点等

### 各国での参加青年の募集・広報の状況について

各国の取組状況について聴取したところ、

各国政府・在外公館公式のSNSでの募集告知や、現地の事後活動組織に対して政府から広報協力依頼を行っている例が多く見られた。

そのほか、大学への広報協力依頼、事業説明会の実施、大使館等主催の日本フェスティバルへの出展、既参加青年がテレビ、ラジオ、新聞等のメディアに働きかけ、募集広報している例も見られた。

#### Voyage of discovery and exposure

By Rayvan Rafidi - January 15, 2020 @ 4:06pm



「ニュー・ストレーツ・タイムズ」2020年1月15日の記事から引用（※）

記事には事業の概要、参加青年へのインタビューのほか、事業募集内容、参加要件、選考方法について紹介されている。

### 募集・選考において苦慮している点について

各国に対して、募集選考において苦慮している点等について聴取したところ、下記の意見あり。

- ・ 選考や募集に係る準備期間が短い
- ・ 応募者のうち、男性が女性の半分以下で、女性にとっては特に競争率が高い状況
- ・ （育成事業において）交流テーマによっては、当該分野に興味関心の度合いが高い参加青年が少なく、結果として応募数が少ない状況だった。
- ・ 交流プログラムの詳細が決まる前に募集が開始されるため、効果的な募集選考ができなかった。

そのほか、内閣府の青年国際交流事業に対する意見として、下記のとおりあった。

- ・ ASEAN及び日本の青年達にとっても魅力的で有意義なプログラムである。青年にとっても国家にとって大変有益なものを与えてくれるこのプログラムがこれからも続いていくことを望む。  
（東ア船：インドネシア）
- ・ 日本の政府および関係者が、支援や調整を行い、メキシコ青年が再び協働するため親切に準備を進めていただいたことに感謝する。（育成：メキシコ）